

# あそび技術は生きる知恵 つみ木が教えてくれること。



つみ木と子どもたちには無限の可能性が  
あります！

核家族化、共働き家庭の増加などを背景に、子どもが大人と一緒にあそぶ機会が減少。親子間のコミュニケーションも減ったと言われている。子どもたちはスマホゲームや携帯型ゲーム機でのあそびに夢中になり、外で体を動かさなくなったり、自ら頭を使ったあそびをしなくなったり…。その現状に真正面から向き合っているのが、中央市の木楽舎つみ木研究所だ。同社の「つみ木おじさん」こと荻野雅之さんは「楽つみ木広場」と呼ばれるワークショップを地元はもちろん、ひろく全国で開催。自分の体と頭を動かす「あそび」を通して育まれる子どもたちの情緒的・知的な発達的重要性を説いている。今月は、聖愛幼稚園で行われていた荻野さんの「楽つみ木広場」に潜入。つみ木あそびの中心から多くものを得て、生きていくのに役立つさまざまなスキルを磨いている子どもたちの様子を取材した。

## ヒノキの森の木がつみ木になった その瞬間から子ども達のパートナー

赤いじゅうたんの上に散らばる小さなつみ木。よく見ると、3cm基尺の正方形、長方形、台形と3種類ある。子どもたちは夢中でそのつみ木を手にし、積み上げたり並べたり。作品を完成させると、得意げに「先生！」「見て！」「とアピールする。「つみ木おじさん」こと荻野雅之さんは呼ばれるたびに子どもたちの元へ行き、作品を思いっきり褒め、「はい拍手だ！」「みんなに向かって披露する。」

甲府市の学校法人認定こども園聖愛幼稚園は「楽つみ木広場」という、つみ木を使った親子のワークショップを10年以上にわたり行っている。赤いじゅうたんの上に散らばる小さなつみ木。よく見ると、3cm基尺の正方形、長方形、台形と3種類ある。子どもたちは夢中でそのつみ木を手にし、積み上げたり並べたり。作品を完成させると、得意げに「先生！」「見て！」「とアピールする。「つみ木おじさん」こと荻野雅之さんは呼ばれるたびに子どもたちの元へ行き、作品を思いっきり褒め、「はい拍手だ！」「みんなに向かって披露する。」

親は、子どもにとって一番のあそび相手。そして、いろんな感動体験と一緒にすべきサポーター。子どもの発達や特性を想像し、理解し、あそびを発展させてあげることが期待される。つまり、子育てには多様な感受性が必要。だからこそ「芸術家の仕事」と荻野さんは表現していた。

## いろんな関係性の中で 人は生きていくのだから

ワークショップの最後にみんなでつみ木の道をつくり、すべての作品をつなげた。つみ木広場ではひとりぼっちはない。「つながり」は究極のライフラインだよ。人は、一人では生きていけないでしょう？何か起こったときには、人とつながっていることが最大の助けになるんです。

一人あそびのあとは、つながっていきこうと、荻野さんは声をかける。人とつなごうの温かさを感じて欲しいと願う。実際、「未就園児から小学生の子と保護者たち。みんなで協力して作品づくりを行えることも魅力」と、参加する親子も多い。「1つ1つはとも小さいもの。小さなもの達ののびしろは、大切な事だね」と言うのは、全員が作品を発表した後の荻野さんのコメント。荻野さんは、「つみ木おじさん」として、子どもたちの可能性を広げるために今後も活動を続ける。育んでほしいのは生きる力。子どもが意欲をもつてに試行錯誤したり、達成感を得て笑顔を見せたり…。ワークショップはあつという間だけけれども、何気なく参加した親子の毎日を変えらるきっかけになっていくかもしれない。



参加している親からは「自分で考えて何かを作り、想像力を伸ばしてほしい」、「根気強く、崩れても何度もやり直す子どもの姿に感心して、何度も通っています」という声が聞かれた。荻野さんは、「たくさんのつみ木」による木あそびのワークショップを世界で初めて開催した人物。使用する「楽つみ木」と呼ばれるつみ木は特許を取得している。「つみ木は親子でできるダイナミックなあそびです。たかがつみ木。されどつみ木。そのプログラムは子どもたちの創造性や意欲を伸ばして、未来につなげる。つみ木のあそび合いは子どもたちの笑顔をつくり、社会を元気にします。」



会場すべての作品がつながり、親子みんなで感動を  
あじわいました。



ワークショップの最後には「つみ木おじさん」からのプレゼントが。

ヒノキのいい香りに子どもたちもクンクン♪



さなつみ木。子どもたちは自分の持てる力で一生懸命何かをつくり上げている。「いいよー、小さな芸術家だよー」、「うわあすごい！みんな見て！拍手だー」。空間にこだまする、感嘆や感動を表現した「つみ木おじさん」の声。じゅうたんのの上には、「夏」をテーマにいくつもの作品が出現した。「つみ木の形は個性の違う3つの形。でもね、なんでもできちゃう。考えるということが大切なんです。いろんなことができるんですよ。大人はやらないことも、子どもはチャレンジしてやっちゃいますから」

## 笑顔は生きる力の指標

### 「あそび」遊美 子育ては「芸術家の仕事」 だからお母さんは「芸術家」

「子どもたちが喜んでる姿を見ると、あと100年生きなぎやってみよう」と荻野さん。楽つみ木広場の活動で目指すのは、子どもの生きる力を養うことだ。

もちろん「あそび」であるから、楽しいことは絶対条件。子どもの健全な成長を促すためには、保護者が一緒にあそび、見守り、見守り、信頼することが必須だ。

「子どもの健全な成長のためには、発達に合わせた必要なサポートがあります。親子のコミュニケーションがきちんと取れるかというのには、子どもの発育のペースですから、このワークショップも親子の関係づくりの一環として開催しています」。こう話すのは、聖愛幼稚園の鈴木信行園長。大切なのは、親子の会話。それと、あそびに関するギャップを埋めて親子一緒に楽しむこと。3つの形で何がつくれるかについて思っていたのですが、なんでもつくれるのですね。子どもを見てみると、手や口が出すぎてしまいがち



kirakusha 木楽舎  
つみ木研究所  
〒409-3831  
山梨県中央市大和田1965  
TEL: 055-273-4472 FAX: 055-273-4088

学校法人 認定こども園  
聖愛幼稚園  
鈴木信行園長

